

## 賀詞交換会総領事挨拶（2026年1月15日）

皆様、新年あけましておめでとうございます。

本日は、お忙しい中、賀詞交換会にお越しいただき、誠に有難うございます。

私は、昨年10月末に着任いたしました。前任地はブリュッセルの在ベルギー日本大使館で次席公使をしておりました。日本とアルザスは19世紀に遡る160年を超える交流と絆の歴史がありますところ、在ストラスブール総領事として着任させて頂いたことを心より光栄に感じております。

本日は、企業関係者の皆様、学術、教育、文化、芸術、スポーツ、ガストロノミーなど様々な分野で、日本とアルザス、日本とフランス、日本と欧州の絆を強めることにご尽力頂いています皆様にご参加頂いています。その中には、大変長い年月にわたって、ご貢献いただいている皆様もあり、敬意を表したいと思います。本日、皆様とお会いし、お話を伺いできることを本当に嬉しく思います。また、本日は、パリから、日本商工会議所、JAL、ANA、JET RO、JNTO、CLAIRの関係者の皆様のご参加を頂いており、感謝申し上げます。

さて、昨年一年間を振り返りますと、ここ近年の例にもれることなく激動の年でした。2022年2月のロシアによるウクライナ侵略、2023年10月のガザのハマスによるテロ攻撃により堰を切られた中東情勢の不安定化、また気候変動や災害の発生、AIの発展など目まぐるしく変化する中で、昨年1月に発足した第二次トランプ政権は、国際経済と地政学の双方において予測を許さない新たな諸政策を打ちだし、引き続き世界の注目を集めています。このような不確実な状況の中ですが、日本としては、対話と力を基調としたルールに基づく国際秩序を維持する努力の中で、日本自身の範囲を確保していくための努力を一層強化する必要があります。そのような中で、「人権、民主主義、法の支配」の価値を共有する欧州、フランスとの関係を強化することは益々重要となっています。また、「人権、民主主義、法の支配」の推進を目的とする、ストラスブールに本部を置く「欧州評議会」の重要性も高まっています。

日本と当地の文脈において、昨年一年間を振り返りますと、大きな交流の進展がありました。

ご承知のとおり、日本では4月から10月まで大阪・関西万博が開催されましたが、フランス館は約470万人の集客があり、大変盛況だったと承知しています。当地のアルザスワイン委員会がフランス館のゴールドパートナーとして出展に参加し、多くの来場者がアルザスワインを堪能し、日アルザスの関係がますます深まる絶好の機会となりました。

昨年5月には、ルロワ議長を団長とするグラン・テスト代表団が訪日し、当地に拠点を置く日系企業の本社などを訪れ意見交換を実施したと承知しています。現在、グラン・テスト地域圏では、水素、医療、バイオ、ヘルスケア分野での日系企業との協力を期待しており、当館として引き続き側面支援を行っていきたいと考えています。

昨年11月には、ストラスブール市とパートナーシップ協定を結んでいる鹿児島市の高校生がストラスブール市を来訪しました。それに先だってストラスブール市幹部も鹿児島市を訪問しており、両都市の交流が継続していることは喜ばしく、今後も発展することを期待しているところです。

また、従来より日本とストラスブール大学の協力関係は強固ですが、昨年秋のストラスブール大学学長の訪日等により、今後さらに大学間協力が進展することが多いに期待されます。

このように、私の前任の内田大使の下、当総領事館が皆様と作った交流の流れを引き継ぎまして、本年もさらなる交流の活発化に力を尽くしてまいりたいと思います。

当面の予定としては、4月12日・13日には、ストラスブールで毎年開催されている JAPAN WEEKEND が5周年、同時開催の EKIDEN が10周年の開催になると承知しています。日本だけに特化したイベントにも関わらず毎年1万5,000人を超える来場者があると承知しており、ぜひ皆様も立ち寄って頂ければ幸いです。なお、EKIDEN については、今年も J A L パリ支店様を中心に J E T R O、J N T O、C L A I R、当館等との合同チームが結成される予定と伺っています。このオールジャパン・チームの健闘を期待しています。

当館主催のイベントとしては、3月24日にストラスブール国立演劇センターで日本舞踊公演を開催の予定です。また、4月30日から5月31日の約1か月間、国際交流基金の巡回展「すしを愛でる」をシルティガйм市で開催する予定となっています。シルティガйм巡回展では、浮世絵や食品サンプル、日本のすし屋疑似体験コーナーなどを通じてすしの魅力だけでなく、日本の食文化や歴史に触れてもらい、日本食の普及にもつながることを期待しています。日本舞踊公演及びすしの巡回展のそれぞれにつきまして、ご関心の皆様にもぜひ足を運んでいただければ幸いです。

この場をお借りして、当地における治安状況について簡単に言及させていただきます。昨年2月には、ミュールーズで刃物を使用した襲撃事件が発生しました。クリスマスマーケットでは、約1,000人規模の警察・治安部隊が動員され、特段大きな事案なく平穏裏に終了しましたが、それでもストラスブール市では、治安等に関連し未成年者数を含む20名以上の逮捕者が出たと承知しています。

なお、仏政府は、2024年3月からテロ警戒レベルを最も高い「テロ非常事態」に設定しており、現在でもそのレベルは変わっていない状況です。農業を巡る問題やパレスチナ・イスラエル状況等を背景に、仏各地では抗議デモや破壊活動が引き続き発生する可能性は十分にありますところ、皆様におかれましては、そうした場所に近づかないよう十分なお留意をお願いいたします。

当館としましては、治安関連情報等を領事メールや当館ホームページを通じて皆様に随時ご案内させて頂いておりますところ、是非こちらもご活用をお願いいたします。

最後になりますが、今年の日本の干支は午（うま）年です。古くからは「躍動」「成功」「勝負運」を象徴する干支として知られています。さらに、2026年は60年に一度巡ってくる丙午（ひのえうま）の年。火の性質を持つ「丙（ひのえ）」と、行動力を象徴する「午（うま）」が重なることで、情熱や勢いが高まり、太陽のようなエネルギーに満ち溢れた一年になると言われています。

総領事館といたしましては、皆様の安全で充実した生活、そして円滑な活動を支えるため、皆様からのご意見やご提案を積極的に伺いながら、当地における日本人社会の発展に貢献していく所存ですので引き続きご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。

本年が皆様にとりまして健康で幸多き年となり、エネルギーに満ち溢れた躍動の一年となりますよう、心よりお祈り申し上げて私の挨拶を終わらせていただきます。（以上）